

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスふくろう・ふくろうジュニア&プラス		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がい特性(ろう難聴)に合わせた支援	利用児童の90%以上がろう・難聴児であるため、事業所内におけるコミュニケーション手段として手話言語を多用しているほか、ろう難聴当事者のスタッフ採用にも力を入れている。	スタッフ一人ひとりのスキルを向上させ、より専門性の高い支援を目指すために研修(学びあい)の機会を増加させていく。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ間の情報共有	事業所の規模拡大を契機としてスタッフ間の情報共有に課題が生じており、これを原因とした退職も相次いでいる。	令和8年度より事業所規模を縮小(単位を廃止)し、スタッフ数も減らしながら、より緊密な情報共有が図られるように対策を講じた。
2	保護者支援	個々の相談には積極的に対応してきたものの、もっと気軽に相談できる体制が整っていなかった。	令和8年度中に相談専用窓口を開設(電話・LINE等)し、面談時以外にも気軽に相談できる体制を構築する。
3	地域との連携およびきょうだい児への支援	地域との連携について、必要性は一定程度理解しつつも、形式的な連携にとどまってしまうことが多い。一方できょうだい児への支援については、イベント等の機会を活用して参加を促す仕組みを作っているが、どこまで実効性を伴うものか不透明な現状がある。	保護者との面談の機会を通じ、改めて保護者がどの程度必要性を感じているのかを改めて確認し、その方法を含めて実施について検討したい。